すこやか健康ニュース

『感染拡大を STOP！　ワクチン接種で風疹の予防を』

5 年ぶりに風疹が流行しています。風疹はワクチンで予防できる病気の 1 つですが、ワクチンを接種したことがない、接種したかどうかわからない、接種したけれど十分な抗体（免疫）がないといった人が一定数いるため、数年おきに流行が繰り返されています。

たくさんの人が感染すると、なかには重症化する人もいますし、妊娠初期の母親が感染することで赤ちゃんの健康に問題が生じることもあります。

●30～50 代の男性に多い免疫不足

国立感染症研究所感染症疫学センターの調べによると、2018 年（第 1～51 週）の風疹患者累積数は 2,806 人で、2017 年同時期の 31 倍となっています。東京や千葉など首都圏で増え始め、青森と大分以外の都道府県で感染報告がありました。とりわけ、報告患者の 96％が成人で、男性は女性の 4.3 倍（2,280 人）で、そのうち 30～40 代が 63％となっています。報告患者は、過去にワクチン接種の経験が「なし」と「不明」の合計が 93％となっており、まさに、風疹の抗体が不足していると思われる層を中心に感染が拡大しています。

風疹の定期接種制度がなかった 1962 年 4 月 2 日から 1979 年 4 月 1 日生まれの男性と、接種率が低かった 1979 年 4 月 2 日から 1987 年 10 月 1 日生まれの男女は、ご注意ください。

●風疹にかかると、どうなる？

風疹は、風疹ウイルスに感染することでおきる病気です。風邪やインフルエンザと同様に、感染者の咳やくしゃみで飛び散ったしぶき（飛沫）の中にいるウイルスを吸い込むことで感染します。風疹ウイルスの感染力は強く、免疫がない集団では 1 人の風疹患者から 5～7 人にうつすほどの強い感染力をもっています。

風疹の主な症状としては、体のだるさと発熱、ボツボツとした赤い発疹、耳や首の後ろのリンパ節の腫れなどがあります。感染してから、2～3 週間程度で症状が現れ、発疹が出る前後約 1 週間は感染力があり、熱が下がるとウイルス量は激減し、感染力は急速に弱まります。一方、患者の 15％程度は特に症状がでないこともあり、感染に気づかないうちに免疫がない人にうつしてしまう危険があります。風邪かもしれないなど体調に違和感を感じたときは風疹の可能性も考慮してください。

●大人がかかると症状が強くなりやすい

風疹は、かつては小児のうちに感染し、自然に抗体を得るのが普通でした。しかし、風疹ワクチンの接種率が上昇して風疹の流行が減り、自然に感染する人は少なくなっています。近年では感染者の多くが成人男性です。

風疹は、小児の場合、通常あまり重くない病気ですが、まれに脳炎、血小板減少性紫斑病などの合併症がおきることがあります。大人がかかると、発熱や発疹の期間が小児に比べて長く、ひどい関節痛になることが多いともいわれ、場合によって、一週間以上仕事を休まなければならないこともあります。

●先天性風疹症候群をご存知ですか？

風疹ウイルスに注意が必要なのが妊娠している女性、とくに妊娠初期の方は慎重に行動しましょう。風疹に感染すると生まれてくる赤ちゃんに耳や目の障害、心疾患や精神・運動発達の遅れ、肝臓の障害など、先天性の障害をもって生まれてくることがあり、なかには死亡例もあります。これを「先天性風疹症候群（CRS)」といいます（妊娠1ヵ月でかかった場合50%以上、妊娠2ヵ月の場合は35%、母親が無症状であってもCRS は発生し、母親の抗体が弱いと再感染もありうるとされています)。

風疹は、ワクチン接種で予防できますが、妊娠中はワクチン接種ができません。かかりつけ医で風疹の抗体検査を受けて、免疫の有無を確認し、免疫がなかった人は厳重な予防対策を行ってください。

●抗体検査とワクチン接種が無料に

厚生労働省では、「早期に先天性風疹症候群の発生をなくすとともに、平成32年度までに風疹の排除を達成すること」を目標としており、昨年末、1962（昭和37）年4月2日～1979（昭和54）年4月1日生まれの男性を対象に、2019～2021年の年度末までの約3年間かけて、風疹の抗体検査を行うとともに、定期接種（無料）を行うことを発表しました。

多くの場合、風疹の症状はひどくありませんが、先天性風疹症候群の発生を防ぐには、妊婦への感染を防止することが重要です。家族や職場、通勤電車の車内など、抗体の不足した妊婦がいた場合、感染リスクを招きます。望まない事態を引き起こすこともあるため、免疫が不十分だと思われる方は、すぐに抗体検査やワクチン接種を受けましょう。定期接種の対象外の人でも、成人女性やその夫、同居者などを対象として、多くの自治体が風疹抗体検査やワクチン接種の費用助成を行っています。詳細については、各自治体にお問い合わせください。

◇　◇　◇

海外で感染する恐れもあるため、海外旅行などの予定のある人は、渡航先の事情を確認して、必要に応じて事前の予防接種を受けましょう。風疹にかかったはずという記憶はあるものの、現状の抗体が強いか弱いかはわかりません。感染者が多い、30～50 代の男性の方はもちろん、女性でも必要に応じて抗体検査やワクチン接種されることをおすすめします。

寒い時期です。風疹以外にも風邪やインフルエンザをはじめとした感染症が多数あります。外出後の手洗いやうがいなどを習慣にして健康に冬を過ごしましょう。

※本記事の内容の全部または一部を無断で転載することは禁止されています。

※本記事は、株式会社法研から原稿の提供を受けて転載しています。